

平成26年度 小林市の財務諸表を公表します

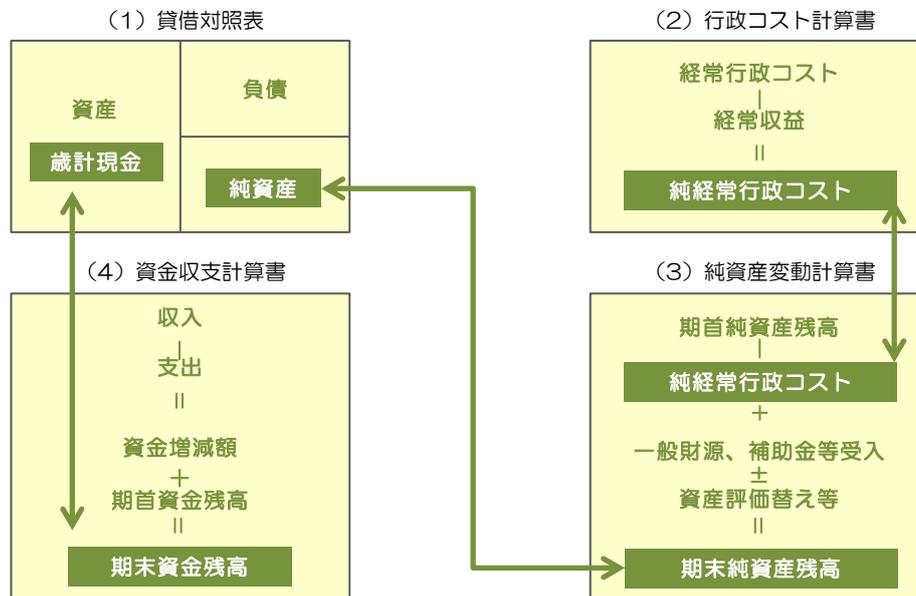
新地方公会計制度のはじまり

平成18年8月の「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針（地方行革新指針）」における「新地方公会計制度研究会報告書」で、「地方公共団体財務書類作成にかかる基準モデル」又は「地方公共団体財務書類作成にかかる総務省方式改訂モデル」による普通会計及び連結の財務諸表4表（貸借対照表、行政コスト計算書、資金収支計算書、純資産変動計算書）を整備すること、との方針が示されたことにより新地方公会計制度が導入されることになりました。

これらの新地方公会計制度に基づく財務諸表は、資産や債務といったストック情報を活用した行政経営の改革改善に活かすことを目的としています。

現在の地方公共団体の会計制度は、その年にどのような収入があり、それを何に使ったかという現金の動きが分かりやすい仕組みになっています。しかし、自治体が今までに整備してきた資産や、行政サービスのコストがどのくらいかかっているかという情報は、分かりにくい点があります。そこで、国が示した基準に基づき、資産・負債などの状況や、行政サービスのコストがどのくらいかかっているかなどを示した4つの財務諸表を作成しました。

財務諸表は（1）貸借対照表（2）行政コスト計算書（3）純資産変動計算書（4）資金収支計算書の4表です。財務諸表4表の相関関係は次のとおりです。



◆ 財務諸表を家計に例えると ◆

貸借対照表

家庭の財産（資産）や住宅ローン残高など借金（負債）、頭金などの負担済み金（純資産）を示したものです。

行政コスト計算書

生活費などの日常的にかかる現金支出と、現金支出を伴わない費用が1年間でどれだけかかっているかを示したものです。現金支出には、家や車などの財産になる支出は含まれません。また、現金支出を伴わない費用とは減価償却費などのことです。

純資産変動計算書

家庭の財産のうち、すでに支払いを終えたものが1年間にどのような内容で増減したかを示しています。

資金収支計算書

家計においての家計簿にあたります。1年間の現金の収入と支出を、日常生活の収支（経常的収支）、財産購入の収支（公共資産整備収支）、借金返済や資金運用（投資・財務的収支）に分けています。

行政コスト計算書

Profit and Loss statement

企業会計における損益計算書の自治体版で、利益の追求を目的とする企業とは違い、営利を目的としない行政サービスの提供にどれだけの費用（コスト）がかかったかを表しています。コストは「人にかかるコスト」や「物にかかるコスト」など、コストの性質別に集計したものと、教育や福祉といった行政サービスの目的別に集計したものとがあります。

区分	金額
人にかかるコスト（人件費など）	3,789,495
物にかかるコスト（物件費など）	6,148,687
移転支出的なコスト（社会保障費・補助金など）	10,959,267
その他のコスト（支払利息など）	330,123
経常費用	21,227,572
使用料・手数料	300,820
分担金・負担金・寄付金	413,610
経常収益	714,430
純経常行政コスト	20,513,142



(単位：千円)

- ・人にかかるコストは、食費など
- ・物にかかるコストは、水道光熱費・日用品費・旅費など
- ・移転支出的なコストは、医療費・御祝儀・お見舞金など
- ・支払利息は、借金の金利など

1年間のコストを住民一人あたりに換算すると・・・

- ・人にかかったコスト 約7万9500円
- ・物にかかったコスト 約12万9100円
- ・移転支出的なコスト 約23万円
- ・その他のコスト 約6900円
- ・使用料、手数料 約6300円
- ・分担金、負担金、寄付金 約8700円



※平成27年3月31日時点の人口：47,639人で計算

主な財政用語について

- 【人にかかるコスト】職員給与のほか、賞与引当金や退職手当引当金の繰入額。
- 【物にかかるコスト】行政サービスに必要な経費、施設などの維持管理費、減価償却費などの総額。
- 【移転支出的なコスト】補助金や社会保障給付（生活保護費や児童手当など）にかかる費用の総額。
- 【その他のコスト】借金（地方債・一時借入金）の支払利息や、回収不能となった税金などの見込額の総額。
- 【経常費用】自治体の行政活動にかかった費用。
- 【使用料・手数料】自治体の施設を利用した際や、戸籍や住民票、税務証明の発行などに対し徴収する金額。
- 【分担金・負担金・寄付金】特定の事業に要する経費に充てるために、その事業によって利益を受ける住民や会社がその一部を負担するお金。
- 【経常収益】行政サービスの対価として徴収する手数料や負担金などの収入。
- 【純経常行政コスト】経常行政コストの総額から経常収益を差し引いた額。

純資産変動計算書

Net Worth matrix

純資産（資産から負債を差し引いた残り）が、今年度中にどのように増減したのかを明らかにしたものです。総額としての純資産の変動とともに、こういった財源や要因で増減したのかを表しています。

区分	金額
前年度末の残高	69,671,722
純経常行政コスト	△ 20,513,142
経常的な収入 (地方税・ 地方交付税など)	20,831,840
臨時損益 (災害復旧事業費 ・投資損失など)	△ 85,151
その他	48,953
当年度末の残高	69,954,222

(単位：千円)

主な財政用語について

【前年度末の残高(期首純資産残高)】
前年度末の貸借対照表における純資産残高。
【純経常行政コスト】
行政コスト計算書で算出した経常行政コストから、受益者負担金などの経常収益を差し引いた額。
【経常的な収入】
収益のうち、地方税や地方交付税など。
【臨時損益】
特別の事由(災害復旧事業費・公共資産売却損益・投資損失など)に基づく臨時の損益。
【当年度末の残高(期末純資産残高)】
当年度末の貸借対照表における純資産残高。

資金収支計算書

Cash Flow

「キャッシュ＝お金(現金)」の「フロー＝流れ」を明らかにしたものです。小林市の収支をその性質に応じて、経常的収支、公共資産整備収支、投資・財務的収支に分けて、小林市のどのような活動に資金が必要なのかを表しています。

区分	金額
前年度末の残高	857,479
経常的収支 (税金・国庫支出金 人件費など)	5,773,299
公共資産整備収支 (国県補助金など)	△ 1,619,264
投資・財務的収支	△ 4,013,140
当年度の資金変動額	140,895
当年度末の残高	998,374

(単位：千円)

主な財政用語について

【経常的収支】
行政サービスの提供で必要となる人件費や物件費などの支出と、地方税や地方交付税などの税金などによる収入。
【公共資産整備収支】
道路や施設の取得のための支出や、公共資産の整備などによる支出と、その財源になる補助金や借入金などの収入。
【投資・財務的収支】
基金への積立額や公債の償還額のための支出と公債発行収入や貸付金の回収額等の収入。



連結貸借対照表

Consolidated Balance Sheet

連結対象の各会計・団体・法人をひとつの行政サービス実施体とみなして、小林市全体の資産や負債のストック情報を網羅した財務諸表が、連結貸借対照表です。

資産の部		負債の部	
【公共資産】	122,268,032	【固定負債】	44,979,884
【投資等】	8,961,185	地方債	38,485,642
投資及び出資	66,514	退職手当引当	4,372,585
基金等	6,915,521	…将来の退職給付支払の見込み額	
その他	1,979,150	その他	2,121,657
【流動資産】	5,691,491	【流動負債】	4,519,088
資金	4,880,698	翌年度償還予定地方債	3,650,914
未収金	797,557	…一年以内に償還期限の到来する地方債	
その他	13,236	賞与引当金	297,362
【繰延勘定】	19,608	…将来支払う事になるであろう賞与	
資産合計	136,940,316	その他	570,812
		負債合計	49,498,972
		純資産の部	
		純資産合計	87,441,344
		負債及び純資産合計	136,940,316

(単位：千円)

連結行政コスト計算書

Consolidated Profit and Loss statement

連結対象の会計及び団体全体で、営利を目的としない行政サービスの提供にどれだけの費用（コスト）がかかったかを表しているのが、連結行政コスト計算書になります。

区分	金額
人にかかるコスト（人件費など）	5,757,048
物にかかるコスト（物件費など）	8,801,536
移転支出的なコスト（社会保障費・補助金など）	25,766,046
その他のコスト（支払利息など）	1,124,416
経常費用	41,449,046
使用料・手数料	322,562
分担金・負担金・寄付金	7,616,050
その他	5,777,390
経常収益	13,716,002
純経常行政コスト	27,733,044

(単位：千円)

連結純資産変動計算

Consolidated Net Worth

連結純資産変動計算表は、連結貸借対照表の純資産（資産から負債を差し引いた残り）が、今年度中にどのように増減したのかを明らかにしたものです。総額としての純資産の変動とともに、どういった財源や要因で増減したのかを表しています。

(単位：千円)

区分	金額
前年度末の残高	89,427,881
純経常行政コスト	△ 27,733,044
経常的な収入 (地方税・地方交付税など)	28,828,410
臨時損益 (災害復旧事業費・投資損失など)	△ 87,766
その他	△ 2,994,137
当年度末の残高	87,441,344

連結資金収支計算

Consolidated Cash Flow

連結資金収支計算書は、連結対象団体の資産に注目し、「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」の3つに区分します。当該年度末における資金の残高を表し、その数値は連結貸借対照表の流動資産のうちの資金と一致します。

(単位：千円)

区分	金額
前年度末の残高	5,757,104
経常的収支 (税収・国庫支出金・人件費など)	5,223,260
公共資産整備収支 (国庫補助金など)	△ 2,021,934
投資・財務的収支	△ 4,078,009
翌年度繰上充用金増減額	0
当年度の資金変動額	△ 876,683
経費負担割合による差	277
当年度末の残高	4,880,698

小林市の連結対象団体（小林市に関わる会計）は下記になります。

普通会計

公社三セク等

(株)のじりアグリサービス
ハーメリックのじり(株)
(株)のじり農産加工センター

公営企業会計等

水道事業
市立病院事業
簡易水道事業
食肉センター事業
宅地分譲事業
公共下水道事業
農業集落排水事業
国民健康保険事業
介護保険事業
後期高齢者医療事業
西諸地域介護認定審査事業

一部事務組合

西諸広域行政事務組合
霧島美化センター事務組合
小林・高原衛生事務組合
宮崎県自治会館管理組合
宮崎県市町村総合事務組合
宮崎県後期高齢者医療広域連合